

創刊に寄せて

丸山眞男記念比較思想研究センター長 黒 沢 文 貴

戦後の日本を代表する知識人であり、思想史家・政治学者である故丸山眞男氏の蔵書とノート・草稿類等の受け入れ開始から、早くも丸六年の歳月が流れようとしている。本年四月からはいよいよ、待ち望まれていた丸山文庫の蔵書類の公開が、図書館をはじめとする関係者のご努力によって、部分的ではあるがはじまろうとしている。この秋にあたり、丸山眞男記念比較思想研究センター（以下、丸山センターと通称・略記する）の機関誌である『東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター報告』（以下、『丸山センター報』と通称・略記する）を創刊することができることは、まことに大きな喜びとするところである。

東京女子大学では、丸山眞男文庫の創設にあたり、受け入れの窓口となられた大隅和雄元図書館長を中心とする丸山眞男文庫準備委員会を組織した。そして丸山門下の研究者で構成される「丸山眞男文庫協力の会」との緊密な協力関係のもと、丸山文庫の保存・管理、利活用の方法の検討、そして蔵書・草稿資料類の整理・調査作業をすすめてきた。

さらに文庫の設立を機に、東京女子大学を丸山眞男研究の中心としてだけでなく、丸山氏が生涯をかけて追求した民主主義思想や比較思想に関する教育研究拠点とし、あわせて文庫の活用をとおして氏の遺志が広く受け継がれていくようにとの願いのもと、記念講演会と読書会を、学内外の方々を対象として開催してきた。なおそうした機会を利用して、丸山文庫の資料類の展示もおこない、多くの方々の文庫に対する関心にも応えてきた。

他方、二〇〇一年三月には、当時の室伏信助図書館長をはじめとする図書館員の献身的な努力によって、『丸山眞男文庫寄贈図書資料目録』が完成した。これは、二〇〇一年二月までの寄贈図書・雑誌類の仮目録的なものであるが、ともかくも二年余りで目録の完成にこぎつけたことは、図書館長と図書館員の、丸山家ならびに丸山文庫に対する至誠と熱情のあらわれといえる。

また、この目録の完成を踏まえて、丸山眞男文庫準備委員会は、その任務を終了することになった。丸山文庫に関係する業務や記念講演会等の企画・開催は以後、「丸山眞男文庫の発展的構想」としてあらたに組織された「丸山眞男記念比較思想研究センター」に引き継がれることとなり、今日にいたっている。この間、二〇〇三年九月一二日には、学長の交替等にもない「比較文化研究所と比較思想研究センターの位置付け」が、丸山センターが付置されている比較文化研究所の商議員会で承認されている。

このあらたな丸山センターの運営体制のもとでは、文庫の公開に向けた種々の作業の着実な進展をはかるとともに、センターの活動の成果をこれまでに広く大学内外に還元・周知することに、活動の主眼が置かれることになった。そのひとつのあらわれが、二〇〇四年度後期に初の試みとしてなされた、本学専任教員による学生対象の講読会の開催である。『文明論之概略』を読む』をテキストとしておこなわれたこの会に、学生は単位にならないにもかかわらず、純粹な知的好奇心から積極的に参加してくれた。学生と講師陣との間に、有意義な知的交流の場を築けたことは、とても心地よい体験であった。

また本年四月からは、丸山センター提供の半期完結の共通科目「比較思想A」「比較思想B」「総合講座・比較思想A」「総合講座・比較思想B」が、恒常的な正規科目として新設、開講されることになった。ぜひとも多くの学生が履修してくれることを願うものであるが、おそらく学外の方々にとっても待望久しかった講座であると思われる。学外公開の予定されているこれらの講座が、多くの市民と学生たちの、学びを共有する有益な場になればと期待している。

とりわけ今回、後期開講の「比較思想B」が、丸山氏とも縁の深い岩波書店の寄付講座に指定されたことは、講座の開設をよりいっそう意義深いものにしていただけたものと思っている。講座の趣旨にご賛同いただいた岩波書店には、この場を借りて厚くお礼申し

あげたい。

なお記念講演会をもとにした論稿が、これまでも同書店のブックレットや月刊誌『世界』『思想』に掲載されるなどしており、現在も、これまでにおこなわれた読書会の記録を出版する計画がすすめられている。今後もこうした種々の活動の成果を、一回限りのものとして終わらせるのではなく、出版というかたちでできるだけ多くの方々に還元し、共有していきたいと思っている。今後とも、講師の方々や各出版社をはじめとする関係各位のご理解を、ぜひともお願いする次第である。

いずれにせよ、『丸山センター報』の創刊も、こうした一連の流れのなかで実現したものである。これによって丸山センターの日常の活動はいうにおよばず、蔵書と草稿資料類とを一体のものとして構成される丸山眞男文庫の整理状況や調査研究の成果、さらに所蔵資料そのものの紹介も広くおこなえるようになった。今後、この『丸山センター報』が丸山眞男および丸山文庫、そして広く比較思想に関心を寄せられる学内外の多くの方々を受け入れられ、学界等における研究にも寄与することができるよう、多くのみなさまのご理解とご支援とを切に願うものである。

末尾となってしまうが、丸山眞男文庫の創設から今日にいたるまで種々の面でお世話になり、ご尽力いただいている、丸山眞男文庫顧問並びに「丸山眞男文庫協力の会」のみなさまに対して、特段のお礼を申し述べたい。

まず文庫の受け入れから現在にいたるまで本学関係者の中心にあり現在も文庫顧問を務められている大隅和雄氏、長い間文庫顧問をお願いしている「協力の会」メンバーの松沢弘陽、平石直昭の両氏、やはり顧問をおやりいただいた宮村治雄氏、「協力の会」の飯田泰三、渡辺浩、荻部直、眞壁仁の諸氏。これらのみなさまのご助力がなければ、これまでの諸活動がこれほどまでに実り豊かなものにはならなかったと思われる。あらためて深甚の謝意を表するとともに、引き続き今後のご支援をお願い申し上げる次第である。また何よりも蔵書・草稿資料類の東京女子大学への寄贈を決断され、その後も物心両面での援助を惜しまれない丸山ゆかり夫人に対し、衷心よりの感謝の気持ちを申し述べたい。東京女子大学の丸山眞男文庫をめぐる諸活動は、すべてゆかり夫人の決断からはじまっ

ているのである。

二〇〇五年三月